

新島襄関連の文献目録 (34)

—著者・筆者別—

同志社社史資料センター

お知らせ

『同志社談叢』に掲載された「新島襄関連の文献ノート」(1)～(24)は、本学人文科学研究所により一括して再配列され、『新島襄関係文献目録』(非売品)として2006年12月に刊行された。

凡例

1. 配列は著編者名をアルファベット順にした。同一の著編者による文献は、発行（発表）年月日順とした。
2. 著編者については、次のような例外がある。
 - (1)無署名の文献のうち、筆者を特定しうる場合は〔 〕内に表示した。
 - (2)著編者が不詳の場合は、その文献が掲載されている雑誌名及び新聞名を著編者欄に掲げた。
 - (3)ペンネームの場合、それが本名より周知されている場合は、ペンネームに続けて〔 〕に本名を付した。
 - (4)翻訳の場合、著者（筆者）、訳者の順番で記し、訳者には適宜（訳）を補った。
3. 書名（論文名）は次のように表示した。
 - (1)単行本、研究紀要、新聞、雑誌には『 』を付した。
 - (2)論文名、記事、抜刷、パンフレット類には「 』を付した。
 - (3)英文単行本の書名はイタリックで表示した。
 - (4)同一文献内に同じ著編者の論考がある場合、それぞれ独立したものとして表示した。
 - (5)タイトルは原則的に原文どおりに表示したが、タイトルに「 』が含まれる場合、適宜『 』に変更した。
 - (6)タイトルに含まれる漢数字は、算用数字で表記した。
4. 出版事項は、次のように表示した。
 - (1)発行所、発行年は原本どおり表記するが、和暦年号は西暦に変更した。再版（以降も）の場合、内容等に関して大幅な改訂がない限り、初版の出版事項を記した。
 - (2)新聞・雑誌の場合、誌（紙）名、巻・号、発行年月、新聞の場合には発行年月日を付した。
 - (3)インターネット上の文献の場合はアドレス（URL）と閲覧年月日を記した。
 - (4)漢数字は算用数字に変更した。

著者（筆者名）	題 名	出 版 事 項
C G.J. キャンベル	“An unbroken chain between us”:thoughts on missionary encounters	『同志社アメリカ研究』第51号、同志社大学アメリカ研究所、2015.3.17
D 同志社女子大学 史料室	「真実ノ愛心ヲ以テ」	Vine 編集室『Vine』Vol.68、同志社女子大学広報課、2015 春
F 布 施 智 子	「新収蔵資料から新島襄書簡について」	『同志社談叢』第35号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.3.1
布施田 哲 也	「新島七五三太の書状の取次ぎ依頼をする J.M.Ferris の手紙（1867年4月16日 New York）」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2.28
布施田 哲 也	「医療宣教師“John C. Berry”がめざした医学校設立運動について」	『日本医史学雑誌』第60巻第4号、日本医史学会、2014.12
H 原 誠	『靈南坂教会の信仰の礎—わたしたちの教会はどのようにして生まれたのか』	日本基督教団靈南坂教会、2015.3.20
八 田 英 二	「同志社で学ぶということ」	『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ Doshisha Spirit Week 講演集』2013、同志社大学キリスト教文化センター、2015.3.20
I 井 上 勝 也	「新島七五三太は何故国禁を犯して密航を企てたのか」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2.28
入 江 さやか	「新島襄草稿『理事功程』における外国地名表記」	『文化学年報』第64号、同志社大学文化学会、2015.3
石 倉 和 佳	「新出資料 石川武美記念図書館成篁堂文庫収蔵大江頼之助宛新島襄書簡について—徳富猪一郎旧蔵資料より」	『同志社談叢』第35号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.3.1
伊 藤 哲 也	「愚直に生きた⑥ 廣津初子」	『会津人群像』第29号、歴史春秋出版株式会社、2015.5.25
伊 藤 彌 彦	「戦前日本の中等教育と同志社英学校」	『近代日本研究』第31巻、慶應義塾福沢研究センター、2015.2.28
K 加 賀 裕 郎	「同志社医療の喪失と再生—ケアする社会へ」	『Chapel』 Vol.20、同志社女子大学宗教部、2015.3

北 垣 宗 治	「新島襄資料をめぐって」	『東日本英学史研究：日本英学史学会東日本支部紀要』第14号、日本英学史学会東日本支部事務局、2015.3
小 枝 弘 和	「2013年NHK大河ドラマ特別展『八重の桜』に関わって」	『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ Doshisha Spirit Week 講演集』2013、同志社大学キリスト教文化センター、2015.3.20
小 原 克 博	「良心学に関するシンポジウム基調講演『良心学とは』」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2.28
M		
リチャード A. メーカー	「片言の英語と不完全な文法にもかかわらず：新島襄の英語で書かれた手紙の分析」	『新島学園短期大学紀要』第35号、新島学園短期大学、2015
松 村 七五郎	「新島夫妻と『満坊』」(上)	『The Doshisha Times』第712号、同志社タイムス社、2015.7.15
宮 庄 哲 夫	「新島の愛人論」	『チャペル・アワー 奨励集』No.286、同志社大学キリスト教文化センター、2015.3.16
宮 庄 哲 夫	「My plan for Japan」	『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ Doshisha Spirit Week 講演集』2013、同志社大学キリスト教文化センター、2015.3.20
森 永 長壹郎	「新島襄の教育—智育、徳育、体育—」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2.28
森 田 喜 基	「同志社国際学院初等部における『新島先生の時間』」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2.28
本 井 康 博	「『八重の桜』散る」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2
本 井 康 博	特別寄稿「新島襄と田村直臣—『築地バンド』との秘められた交遊—」	『同志社時報』第140号、学校法人同志社、2015.10.1
本井康博、岡山寧子、石川立	「鼎談 同志社医学教育の歩み—同志社病院と京都看病婦学校—」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2
村田晃嗣、木原活信、内藤正典、位田隆一、小原克博	良心学に関するシンポジウムパネルディスカッション「『良心学』が目指す地平」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2
O		
岡 山 寧 子	「明日への試み 同志社女子大学看護学部 新島襄の医療人教育への志を今に受け継ぐ看護学教育」	『大学時報』第362号、2015.5

大井純一	「上野栄三郎の生涯—実業の世界に乗り出した同志社寺町時代の学生—」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2.28
大越哲仁	「蘇峰と新島夫妻（五）家康公顕四〇〇年記念事業と蘇峰の家康・秀吉論」	『民友』399、公益財団法人蘇峰会、2015.1.1
大越哲仁	「蘇峰と新島夫妻（六）—トンネル火災と磐梯山の噴火—」	『民友』401、公益財団法人蘇峰会、2015.7.1
大越哲仁	「蘇峰と新島夫妻（七）—駿府博物館と磐梯山破裂—」	『民友』402、公益財団法人蘇峰会、2015.10.1
大越哲仁	「新島襄の海外渡航と中濱万次郎」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2.28
大越哲仁	「同志社ハリス理化学校設立次第一新島襄と下村孝太郎と J.N.Harris—」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2.28

S

坂上敦子(監訳)	「アメリカン・ボード宣教師文書—同志社女学校宣教師を中心として—(M.F. デントン書簡一訳および註—)」(2)	『Asphodel』第50号、同志社女子大学英語英文学会、2015.7.26
坂本清音	「婦人の力は實に廣大なり」—新島襄と女性教育—(大河ドラマ『八重の桜』を視聴しつつ)」	『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ Doshisha Spirit Week 講演集』2013、同志社大学キリスト教文化センター、2015.3.20
坂本清音	「アメリカン・ボード宣教師文書—同志社女学校宣教師を中心として—(M.F. デントン書簡一訳および註—)」(3)	『Asphodel』第50号、同志社女子大学英語英文学会、2015.7.26
佐藤優	「同志社のキリスト教主義は人生にどう役立つか」	『同志社時報』第140号、学校法人同志社、2015.10.1
菅原真理子	「同志社とカールトン大学」	『同志社時報』第139号、学校法人同志社、2015.4.1
鈴木直人	「同志社って」	『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ Doshisha Spirit Week 講演集』2013、同志社大学キリスト教文化センター、2015.3.20

T

田島繁	「新島襄の足跡を辿る 中国・四国編—岡山、高梁、玉島、笠岡、今治、松山—」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2.28
竹内力雄	「家宝の名刀—『同志社大学設立募金日誌』にみる新島先生と原田正之助の刀に込めた想い—」	『The Doshisha Times』第706号、同志社タイムス社、2015.1.15
竹内力雄	「新島襄の扮装—女装説と函館の環境—」	『同志社談叢』第35号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.3

田中智子	「同志社『大学設立義捐金募集運動』再考—取扱窓口となった新聞雑誌についてのスケッチ—」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2.28
露口卓也	「八重の青春」	『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ Doshisha Spirit Week 講演集』2013、同志社大学キリスト教文化センター、2015.3.20
W		
和田洋一	『新島襄』	岩波書店、2015.10.16
Y		
山下明子	「凜として生きる—クリスチャンの八重」	『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ Doshisha Spirit Week 講演集』2013、同志社大学キリスト教文化センター、2015.3.20
山下智子	「新島八重ものがたり—わたしらしく生きる」	『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ Doshisha Spirit Week 講演集』2013、同志社大学キリスト教文化センター、2015.3.20
吉田曠二	「新島襄と「ロビンソンクルーソー」(8)—新島の函館滞在：55日間のドキュメント」	『The Doshisha Times』第706号、同志社タイムス社、2015.1.15
吉田曠二	「新島襄と『ロビンソン・クルーソー』(9)—函館から欧米列強の国際都市・上海へ」	『The Doshisha Times』第707号、同志社タイムス社、2015.2.15
吉田曠二	「新島襄はなぜ、函館から国禁を犯して海外に脱出したのか?—『ロビンソン・クルーソー』と新島襄—」	『新島研究』第106号、同志社大学同志社社史資料センター、2015.2.28
吉田曠二	「新島襄と「ロビンソン・クルーソー」(10)—上海でベルリン号からワイルド・ローバー号に乗船」	『The Doshisha Times』第708号、同志社タイムス社、2015.3.15
吉田曠二	「新島襄と「ロビンソン・クルーソー」(11)—上海で虎の口から脱出できた新島ジョー」	『The Doshisha Times』第709号、同志社タイムス社、2015.4.15
吉田曠二	「新島襄とロビンソン・クルーソー(12)—憂国又憂国、恩人セイヴォー船長の受難に発奮」	『The Doshisha Times』第710号、同志社タイムス社、2015.5.15
吉田曠二	「新島襄とロビンソン・クルーソー(13)—香港の風景：各宗派の耶蘇教伝道が許された街」	『The Doshisha Times』第711号、同志社タイムス社、2015.6.15
吉田曠二	「新島襄とロビンソン・クルーソー(14)—香港で人生の指南書聖書を手に入手—」	『The Doshisha Times』第712号、同志社タイムス社、2015.7.15
吉田曠二	「新島襄とロビンソン・クルーソー(15)—インド洋・喜望峰経由、ボストンへ—」	『The Doshisha Times』第713号、同志社タイムス社、2015.9.15

吉田 曠 二	「新島襄とロビンソン・クルーソー (17) — 「ポストンでロビンソン・クルーソー」 英語版に再会—」	『The Doshisha Times』第 715 号、同志社タイムス社、2015.11.15
吉田 曠 二	「新島襄とロビンソン・クルーソー (18) — 「ポストンでロビンソン・クルーソー」 英語版に再会—」	『The Doshisha Times』第 716 号、同志社タイムス社、2015.12.15
吉田 亮	「不倦不撓に生きる」	『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ來ラン事ヲ Doshisha Spirit Week 講演集』2013、同志社大学キリスト教文化センター、2015.3.20
百合野 正 博	「ドラマチックに生きる—新島襄と八重を会わせたもの—」	『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ來ラン事ヲ Doshisha Spirit Week 講演集』2013、同志社大学キリスト教文化センター、2015.3.20